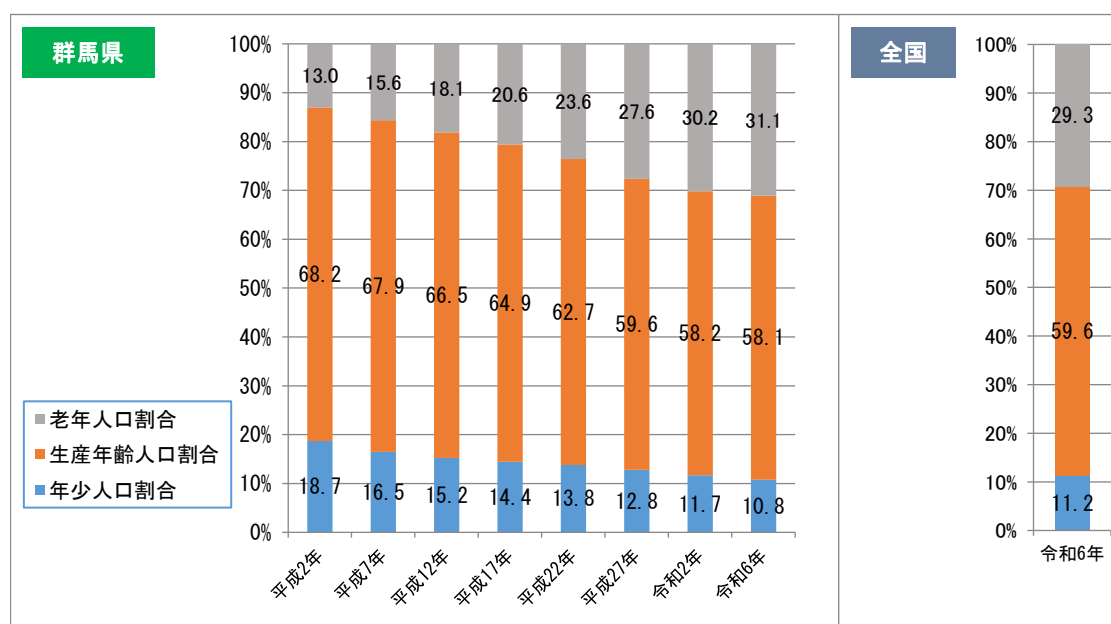


群馬県の現状 (令和7年度)

1 人口

令和6年10月1日現在の群馬県の人口は、189万人（全国18位）である（総務省統計局人口推計 都道府県、男女別人口及び人口性比—総人口、日本人人口）。また、人口に占める年齢別人口の割合は、0～14歳の年少人口割合が10.8%、15～64歳の生産年齢人口が58.1%、65歳以上の老年人口が31.1%であり、65歳以上の人口割合は、令和2年と比べ0.9ポイント増加している（総務省統計局人口推計 都道府県、年齢（3区分）、男女別人口の割合）。

図1 年齢区分別人口割合の推移



2 就業状態

群馬県の労働力人口は987,514人で、労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）は62.4%（全国62%）である（令和2年総務省「国勢調査」）。

3 産業

(1) 事業所数および従業者数の状況

群馬県の民営事業者数は84,119事業所で全国18位である。また、群馬県の民営事業所における従業者数は、889,631人で全国17位である（令和3年「経済センサス活動調査」）。

(2) 産業分類別事業所数及び従業者数

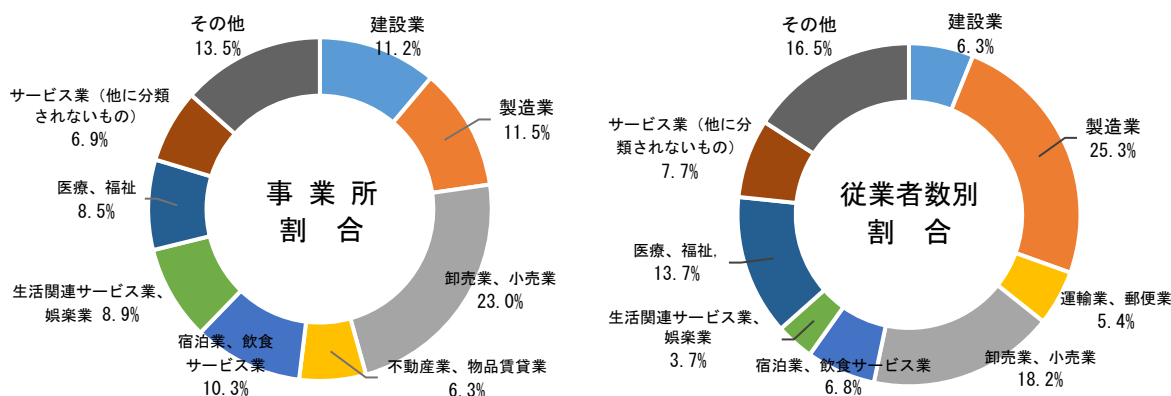
<事業所数>

産業大分類別に事業所数をみると、「卸売業、小売業」が19,317事業所（全産業の23.0%）と最も多く、次いで「製造業」9,712事業所（同11.5%）、「建設業」が9,390事業所（同11.2%）となっており、上位3産業で全産業の45%を占めている（令和3年「経済センサス活動調査」）。

＜従業員数＞

産業大分類別に従業員数をみると、「製造業」が 224,642 人（全産業の 25.3%）と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が 162,118 人（同 18.2%）、「医療、福祉」が 121,842 人（同 13.7%）となっており、上位 3 産業で全産業の 60%を占めている（令和 3 年「経済センサス活動調査」）。

図 2 産業大分類別事業所・従業員割合

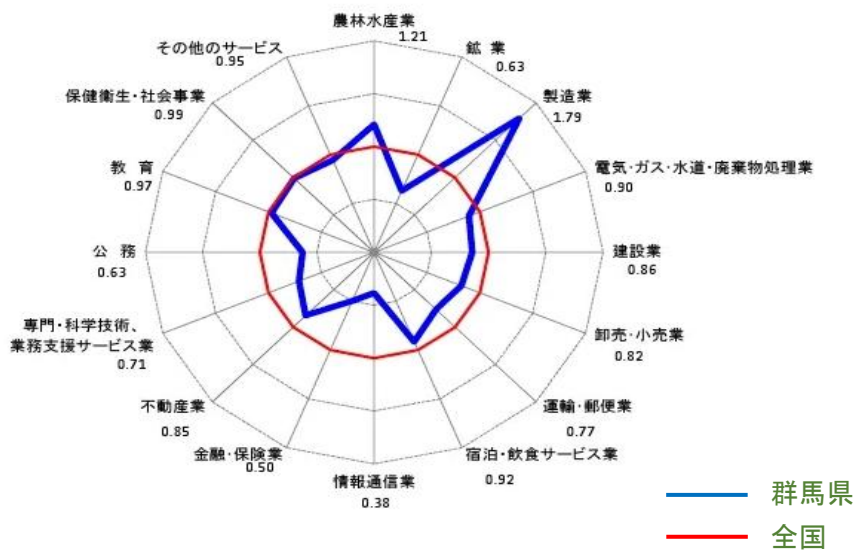


4 県民経済計算

令和 4 年度の群馬県の県内総生産（名目）は 9 兆 7,620 億円となっており、前年比 6.7%の増加となった。また、一人当たりの県民所得は 346 万 7 千円となっている（内閣府経済社会総合研究所「県民経済計算（平成 23 年度—令和 4 年度）統計表」）。

また、令和 5 年度の製造業の特化係数（全国の産業構造の構成比を 1 とした場合）は 1.79 と全国を大きく上回る（群馬県「令和 5 年度県民経済計算」）。

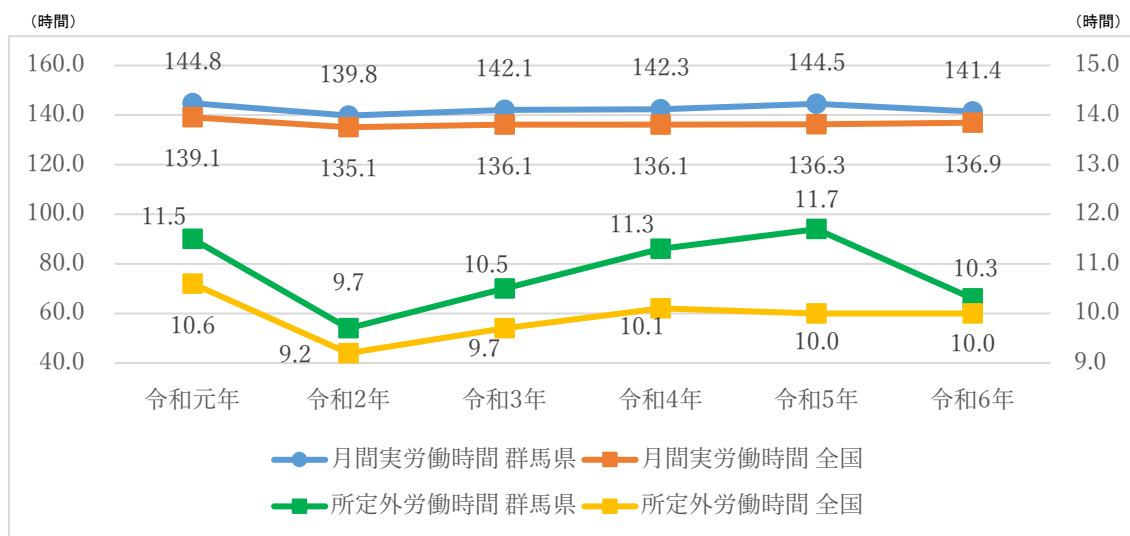
図 3 特化係数（令和 5 年度）



5 労働時間

群馬県の令和6年の常用労働者1人平均月間総実労働時間を全国と比較すると、群馬県は、141.4時間であり、全国平均を4.5時間上回る。また、所定外労働時間についても、10.3時間と全国平均を0.3時間上回る（厚生労働省「毎月勤労統計調査（地方調査）」〈事業所規模5人以上〉）。他方、令和5年と比べて、それぞれの差が小さくなっている。

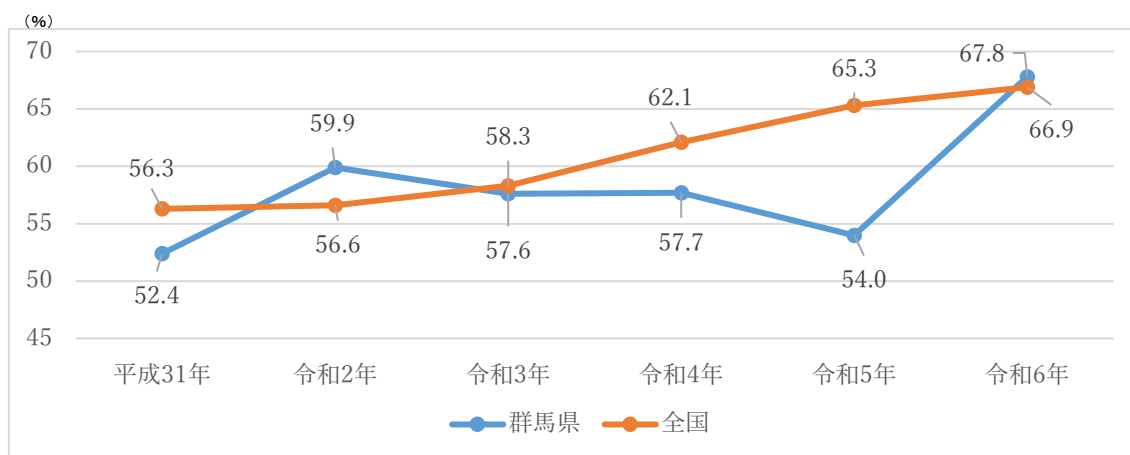
図4 労働時間の全国との比較



6 年次有給休暇

群馬県の年次有給休暇取得率は、令和2年は全国平均を上回ったが、令和3年以降の年次有給休暇取得率は、全国平均を大きく下回っている状態が継続していた。しかし、令和6年は、年次有給休暇取得率が大きく上昇し、全国平均を0.9%上回る結果となった（令和7年就労条件総合調査の特別集計を基に厚生労働省雇用環境・均等局総務課雇用環境政策室が作成）。

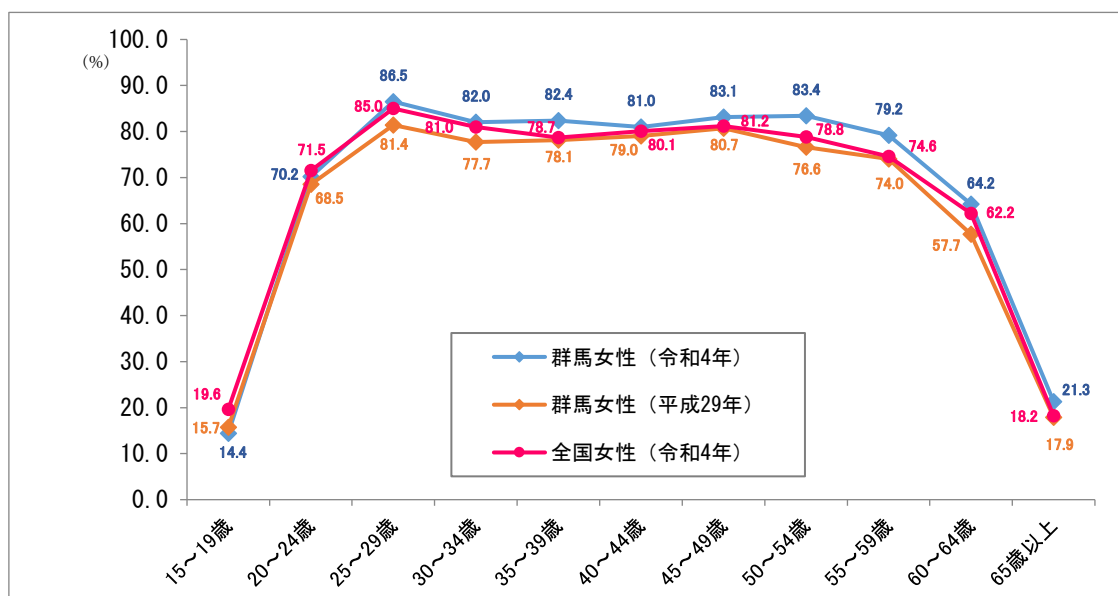
図5 年次有給休暇取得率の推移



7 女性労働者

群馬県の女性の有業率は、25歳以上になると全国を上回り、台形型に近い形を示している。(令和4年総務省「就業構造基本調査」)。

図6 年齢階級別女性の有業率



8 短時間労働者

パートタイム労働者（アルバイトを含む）は、22万9千人で雇用者総数の24.6%を占め、雇用者に占めるパートタイム労働者の割合は増加している（令和4年総務省「就業構造基本調査」）。

図7 短時間労働者数の推移

